

別紙

## 補植特記仕様書

### 1 苗木の仕様

樹種	区分	長さ	根元径	コンテナ容量	摘要
スギ (実生コンテナ苗)	5号以上	30 cm 以上	4.0 mm 以上	150 cc 以上	・出荷時に自立せず湾曲するものは規格外とする。  ・露出した状態の根鉢を軽く振って培地が崩れ落ちる状態のものは規格外とする。

(注) 定められた配布区域内とするが、産地は指定しない。

### 2 ha当たりの植付本数及び苗木の植付間隔

植付樹種	ha当たりの植付本数(本)	苗木の植付間隔(水平距離)		適用林小班等
		列間	苗間	
スギ (実生コンテナ苗)	2,000	2.2 m	2.2 m	711り林小班

(注) 寸法の単位は、m以下1位(10cm単位)とする。

## 忌避剤散布特記仕様書

## 1 忌避剤の散布内訳

対象 植栽木 樹種名	適用 害獣名	原液量 (ℓ)	希釈 倍率 (倍)	散布 面積 (ha)	植栽木 本数 (本)	植栽木 1本当たり 散布量(ml)	総散布量 (ℓ)	対象林 小班等
スギ	カモシカ	9.1	3～4	0.34	680	13	27.3～ 36.4	711り 林小班

## 2 作業方法等

散布対象は、区域内の幼齢植栽木（以下「植栽木」という。発生している有用天然木等で植栽木の配置状況等に応じて保存育成するものを含む。以下同じ。）とし、その方法は以下による。

薬剤の種類、散布量等は、事業内訳書のとおりとする。

- (1) 原則として薬剤は乙が調達することとするが、その場合は使用する前に監督職員の確認検査を受けることとする。
- (2) 手動散布機により散布する（霧無しノズルを使用）。
- (3) 薬剤は貯蔵中に油分の分離を生じることがあるので、使用の際はよく攪拌して均一な状態として～、所定量の水に希釈し、よくかき混ぜてから散布する。
- (4) 薬剤の散布部分は、樹木の食害が予想される部分とし、監督職員の指示がある場合はその指示による。
- (5) 散布に用いた器具等は、使用後直ちに洗浄する。なお、残りの薬剤は河川等に流さず、容器は環境に影響を与えないよう適切に処理する。

## 3 安全上の留意事項

- (1) 本作業実行に当たっては、安全研修等を実施し、薬剤の特性、事業実行上の注意、散布要領を全作業員に熟知させなければならない。
- (2) 作業に当たっては、保護衣類（防護衣・手袋・マスク、防護メガネ等）を確実に着用させ、薬剤を素手で握ったり、皮膚に付着したりしないようにするとともに、作業後は顔や手等の露出部を石鹸等でよく洗い、うがいをするなど、健康管理、災害防止に万全を期すこと。
- (3) 間違えて眼に入った場合には、直ちに水洗いし、眼科医の手当てを受ける。
- (4) 作業中は、危険回避のため、関係者以外立ち入りを禁止する措置を講ずること。

#### 4 実行上の留意事項

- (1) 散布時の風向に留意し、風上から風下に向けて散布する。
- (2) 散布直後の降雨、または強風時の使用は効果を減じるので、強風・雨天を避け、天候をよく見極めてから散布する。また、散布中に強風や降雨があった場合は、直ちに作業を中止する。
- (3) 崩壊危険箇所、河川、沢等については、両側に10m程度（常時流水のある沢については20m程度）の間は散布しないこと。
- (4) 薬剤の授受は、監督職員立会のもとに厳正に行い、厳重かつ良好な状態で保管しなければならない。
- (5) 空箱、空袋は確実に回収し、監督職員立会のもとに数量を確認し、適切に処理すること。

#### 5 薬剤の性質

- (1) 性状 類白色水和性粘調懸濁液体
- (2) 有効成分 ジラム（白色粉末）32% ジンクジメチルチオカーバメート
- (3) 効果
  - ア) ノウサギ・カモシカ・ニホンジカに忌避効果が認められる。
  - イ) 薬剤は散布後3時間程度で素早く乾燥、また付着性にも優れ、降雨による流出が無く散布した部分の食害を長期にわたって防止する。
  - ウ) 味覚刺激による食害減退効果がある。
- (4) 安全性
  - ア) 毒性分類 普通物（劇物・毒物・特定毒物に該当しないもの）
  - イ) 魚毒性 （散布された薬剤が河川湖沼海域および養魚場に飛散又は流入するおそれのある場所では使用せず、これらの場所以外で使用する場合も、一時に広範囲に使用しない。散布に使用した器具及び容器を洗浄した水、使用残りの薬液は河川等に流さず、空き袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理する）

#### 6 薬剤の散布量等

- (1) 希釈倍数 3～4倍
- (2) 使用原液量 1本あたり およそ13 mL

7 作業イメージ図（散布樹種：スギ、ヒノキの場合）

